

2020年(令和2年)

第146号

(2月1日)

平安月報
The HEIAN monthly report

発行所：立正佼成会 京都教会
 発行責任者：渉外部長 田中規之
 編集委員長：渉外広報 植田恭司
 〒605-0041 京都市東山区三条東町 230
 TEL (075)762-2211 FAX (075)762-2266

元旦参り・御親教 ～令和2年の新しい時代を迎えて～

元旦参りが1月1日午前6時30分から教会法座席において行われ、多くの会員が参集しました。式典は読経供養後、門川大作京都市長・前原誠司衆議院議員のご挨拶、京都佼成議員懇話会の議員紹介、中村憲一郎教会長の挨拶と続きました。読経供養では庭野会長の年頭誓願文を中村教会長が奏上しました。

門川市長は挨拶の中で教育委員会時代から京都教会の皆さんには支えて頂いていると感謝の意を述べながら、昨今の虐待問題、孤立問題にもふれ、SDGs(持続可能な開発目標)の活動が世界的に広まっていることを紹介しました。また、会員の信仰の姿を家庭や社会で実践していることや自分の宗教でしか救われるのではなく、それぞれの人が信じる宗教を実践する中に平和が訪れるという信念に基づいて活動されることに感銘を受けると述べ、今後の活動に期待を寄せました。

続いて挨拶に立った前原衆議院議員は、一人親の貧困が先進国の中で最悪の状態であることを紹介。年間200万円以下の所得家庭への取り組みや教育の無償化により家庭への負担軽減について述べました。

また、会員綱領についてふれ、家庭・社会・国家・世界の平和境建設は政治も同じことが言えると語り、結びました。

中村教会長は、国会や懇話会の議員に対し、国のため地域のために尽力頂きありがたいと感謝の意を述べると共に、庭野会長の年頭誓願文の人材育成を中心に教団創立100年に向け、取り組んでいきたいと発表しました。また庭野開祖が「正月は己を正す月」とご指導下さっていたことを紹介。棚から牡丹餅ではなく、読誦、お給仕など、為すべきことを行ってはじめて結果を頂けることや正月に自分の行動を見直していくことの大切さを述べました。門川市長の挨拶にもふれ、「菩薩行実践することが佼成会の持前」と評価頂いていることをかみしめ、今後の精進を促しました。



令和2年の御親教式典が1月7日、本部大聖堂で行われ、インターネット配信で全国各教会にも放映、京都教会においても法座席に多くの会員が参集しました。

庭野会長は法話の中で、今年の手紙初めである「燈明」と「尋常」を発表されました。「燈明」とは自燈明、法燈明であり、自らが燈明となって世の中を照らすことの大切さを説かれました。

「尋常」とは常に尋ねると言うこと。人間として誰にも変わらない態度や徳を身につけること。良い習慣、良い知識を持ち、人間としての基本的な大切な事を身につけることだと説明されました。

中村教会長は、1月は行く、2月は逃げる、3月は去ると紹介。一時一時、日々を大切に、即是道場の精

神で過ごし、時を守り、場を清め、礼を正す中で、「まず人さま」の心を忘れてはならないと述べました。

また、現在この教会や修行の場を頂いているのは、今日を築き上げて下さった先輩、先達のお陰はもとより、その先に、その方達の家族の犠牲があると感謝の意を述べ、私たちも一人でも多くの人に法を伝え、法を残すことが大切だと精進を促しました。

庭野会長のご法話を振り返り、人間として基礎的な事を身につけることとして、自ら挨拶、履物をそろえる、椅子をもどすことの大切さを解説しました。

自ら声をかけることを通して、蹴上など教会の前の道路が「挨拶通り」になるような文化を作りたいと抱負を述べ、締めくくりました。

冬で雪が降りない日が続いて、夏の水不足を心配する声もあります。水文化を守るためにも温暖化を抑えることが求められます。

千二百年にわたり栄華を誇ってきた京都。この京都の繁栄を支えているものの一つに地下水があることを知りました▼京都盆地は南北に長い形をしています。地下水を多く含む地層(砂礫層)が、天王山と清水八幡宮のある男山のあたりで終わります▼これが天然の地下ダム(の役割を果たし、京都盆地の下には、琵琶湖の水量に匹敵する地下水があることが分かりました▼平安京ができた頃の御所は、船岡山付近にありました。そこでは、地下水が十分でないので、平安中期に御所が東に移転したと考えられています▼地下水が湧いてくるところに造られた、多数の美しい庭園。地下水の水質が合って発展した酒造り。京都で最初に地下水を利用して作られた豆腐や湯葉。このように京都の地下水は京の文化を今も支えています▼暖

時事刻々

今月のことば ～生きがいを見つけよう～

京洛支部支部長 荒賀千陽

「今月のことば」を担当させていただきます。京洛支部支部長 荒賀千陽です。

今月の会長先生のご法話は、「生きがいを見つけよう」です。

今月2月15日は涅槃会です。私たちがやがて死を迎えます。仏教では「生死一如」といいますが、生きることと死ぬことは1セットです。生があり、死があってこそ「命」なのです。ところが私たちは、死は恐ろしくてなかなか受け入れられません。だからこそ、お釈迦さまは「お前も死ぬぞ」とこの世の実相を身をもって語りかけてくださったということと教えていただきました。

そこで、法華経・法師品の一節「衆生を哀愍し願って此の間に生れ」をとおして、私たちが、命をいただいた意味や身近な人や家族、自分が、病気をしたり、亡くなったりした時の苦悩の受けとめ方、そして生涯にわたり生きがいをもって生きる姿勢について学ばせていただいています。

私の母は今月17回忌を迎えます。母の死は、ほんとうにつらく、悲しいことでした。母が入院している時に思い出すことは、いつも先生や看護師さんに「ありがとうございます」と感謝して言っていました。ごはんが食べられたことや薬がのめたと、ひとつひとつ喜んでいました。最後、意識がなくなる前に弟が「おかあちゃん、先生がきてくれたはるよ。お礼言うとか」って言った時、母は合掌していました。

ふりかえりますと、母はわがままな私をいつも何も言わず、受け入れてきてくれました。こんな私に気づいたのは、青年部で青梅練成に行かせていただいたからです。親として子供にしてくれるのは、あたり前とと思っていました。社会人として働いていましたので、自分のことは自分でちゃんとやっていると思っていました。そうではなく、親のおかげさまで生んでもらって育ててもらってきました。心の底から自分は、感謝がなかったことに申し訳なく思いました。家に帰って、すぐ母におわびをしました。

それからは、母の思いを聞かせてもらうように心がけました。母が愛情をもって私を育ててくれたおかげさまで。今度は私が人さまに喜んでいただける生き方をさせていたどうかと思いました。

会長先生は、救いとか生きがいといってもおおげさに考えることはありませんとおっしゃっておられます。夕飯の料理に最善を尽くすとか、あいさつを気持ちよくするなど、ささやかでも、あなたしかできないことを喜びとして、それがまわりの人に喜ばれるといったことです。それが、生きる意味や生きがいの核心と教えていただきました。

仏さまの教えをいただいていることに心より感謝させていただきます。初心にかえり、人さまの話に耳をかたむけ、素直な気持ちで、おかげさまを伝えることを実践させていただきます。

ありがとうございました。

合掌

宇治法座所開き・新春の集い ～重なる周年に、走り回りたい～ 松田特派員

令和2年の法座所開き及び新春の集いが、宇治法座所で1月13日（月祝）9時から開催されました。

法座所開きでは、中村教会長をはじめ、花房宇城久明社会長（宇治神社宮司）、他2名の府市議会議員出席のもと、ご供養、来賓祝辞、木崎若手壮年部員による決意発表、支部役員の今年の抱負及び中村教会長のおことばで法座所開きは終了しました。

この中で、ご来賓の方からは、干支にちなんだお話と阪神大震災でのご縁のお話、そして中村教会長から尋常「常に尋ねる」であること、会長先生の「目の前のことを、まごころをこめて、一生懸命、本気で取り

組む」姿勢についてお話いただきました。

引き続き行われた「新春の集い」では、山井和則衆議院議員の他4名の府市議会議員、及び山本正宇治市長にもお越しいただき、それぞれご挨拶をいただきました。その中では、宇治支部40周年、明社バザーが30回、WCRPが50周年を迎える年であることを改めて認識し、東京オリンピック開催でもあるこの年に、ネズミのように走り回る年になりそうな予感がするお話でした。

最後に、恒例のビンゴゲームも行われ、支部会員72名と共に、新春早々、大いに盛り上がりました。



はたちを祝う成人式 ～みやこめっせと京都教会で実施～

はたちを祝う記念式典が1月13日、左京区岡崎のみやこめっせで開催され、新成人7,970人が参加しました。京都市は今年から携帯による受付を実施。そのため、例年より参加者が増えました。

京都教会からは館外誘導として青年部13名、ユース21 京都の姓名鑑定コーナーには法輪クラブから15名のボランティアが参加しました。姓名鑑定に新成人125名が来場し、大いににぎわったようです。

鑑定をしながら、「名前を付け、今まで育ててくれた両親に「ありがとう」を伝えましょう」と言うと「はい」と素直に返事する子が多く、中には「今まで苦労してきたんだね…」と言うと静かにうなずく新成人もおられたとか。しかし、そのことを顔にも出さないで友人と仲良くする姿に、心から応援する気持ちになったと言う感想がありました。



第54回成人式が1月26日、教会法座席及び体育館で行われ、6名の新成人が出席、会員も多く参加しました。

法座席での1部式典で中村教会長は今回のテーマである「LIFE ～主人公は君だ～」を説明。また、実行委員は去年の成人者が行き、京都教会の良き伝統が54年続いてきたと紹介しました。

物事を成すには3つの要件が必要であり、①自分自身の努力、②周りの協力、③神仏のご加護だと解説。25年前の阪神大震災や10年前の東日本大震災は人間の力ではどうすることもできないこと。また成人になるとは「様々なお陰さまで今ここにいられることを認識出来ること」、そして、より良き人生を歩むために①人の良い所を見る習慣を身に付ける、②読書する習慣を身に付ける

③自分よりもまず人さまを優先すると説明。最後に、みなさんの共通の使命は、何かの役に立つこと、周りの人に喜んでもらうことと述べ、今後の活躍に期待を寄せました。



迎春へ華やぐ終い天神で 恒例の街頭募金活動 ～京洛・右京明社～

京都の1年を締めくくる縁日「終い天神」でにぎわう12月25日、恒例の右京明社と京洛明社合同による街頭募金活動を実施しました。当日は晴天にも恵まれ、風もなく、絶好の募金日和の中で皆さん善意の募金活動を実施しました。



募金活動は例年の通り、11時～12時までを京洛明社。12時～13時を右京明社が担当しました。今年の参加者は例年並みでしたが、京洛明社の参加者の中には昨年も参加した小学4年の学童が「お願いします！」と募金を大きな声で呼び掛けると、「寒い中ご苦労さん」と激励の声をかけられ、多くの方から善意の募金をいただきました。

当日の善意の募金(33,932円)は、例年の通りその日のうちに京都共同募金会に持参・寄付しました。後日、同募金会から、地区明社宛に丁寧な礼状が送られました。

日常生活の中の仏教用語 ～えっ？こんな言葉も仏教が語源？～

言葉のルーツを知って仏教に親しみを持ちましょう。

【蒲団(ふとん)】

一般には寝具を指す言葉だが、もとは坐禅用の敷物のこと。現在の「座蒲団」のほうに近い。

蒲団の「蒲」は、水草の蒲(がま)のことで、これを干し、丸く編んだものを、坐禅などのときに敷いた。「団」は丸い形を表す言葉である。

寝具の呼び名となったのは、修行僧が坐ったり眠るときに使う敷物の「坐具」と混同されたため。長方形の布でできていて、こちらのほうが寝具に似ている。また、布団という字は当て字。

(「仏教早わかり百科～主婦と生活社～」から抜粋)

庭 野 日 敬 開 祖 法 話 集

～開祖随感より～

「福が福を生む」

節分を迎えると、どこの家でも「福は内」「鬼は外」と大きな声を張り上げて豆まきをしますが、こっちの家も、あっちの家も、わが家だけで福を独り占めしようとしたのでは、せつかくの福が、逆に、みんなこぼれていってしまうのではないのでしょうか。二宮尊徳翁に「富者の道は推譲」という教えがあります。天の恩、地の恩、人の恩を心に刻んで、その恩に報いるのが譲です。

商売で成功している人を見ると、利にさとく才覚のある人よりも、意外に不器用な人が多いそうです。儲けを独り占めしてしまうのではなく、人さまの取り分も残しておいてあげる、福を人さまに分けてあげる。すると、福が福を生んで自分のところへ帰ってくるのです。

菩薩行とは、悪条件も苦にせず喜んでやらせてもらうこと、といってもいいと思うのですが、こっちが人さまにも福を分けさせてもらおう、という考えになると、まわりから自然に事がうまく運びように、順序が整ってくるのです。商売も菩薩行も一つなのですね。

「信念をとおす」

このところ、寒さがいちだんと厳しくなってきました。だいぶ昔の話になりますが、私が十八歳で再上京して炭屋さんに奉公したのは、寒さがいちばん厳しい真冬のまっさかりでした。

それまでどんなにつらい畑仕事でも平気だったのに、手にあかぎれができてパッキリと割れ、血がにじんだものです。その血の流れる手で夜遅くまで炭を切り、薪割りをしたことが、寒さが厳しくなってくると懐かしく思い出されます。

当時は、将来何になるという具体的な目標はありませんでしたが、とにかく「私は日本一になるんだ」と

いう気持ちで、「なにごとであれ一生懸命に働かなくては日本一にはなれない」と自分に言い聞かせ、気持ちを奮い立たせたものでした。

そういう気概を持っていましたから、仕事がつらいから手を抜く、といった気持ちは毛頭起こりません。「この程度の仕事に耐えられないで何ができるか」と、なにごとにも挑んでいく心意気で、その気概を、私はその後も変わらずに持ち続けたのでした。

私はいまも、なにごとにも真剣に、まじめにやり続ければ必ず道は開ける、という信念を持ち続けているのです。

「自分を燃やしきる」

「法華経の一偈一句でも聞いて一念でも随喜する者は、必ず最高の悟りを得て仏になれることを、私が保証します」と「法師品」で仏さまは約束しておられます。信仰は不思議なもので、ほんのわずかしき教えを知らなくても、「ありがたい、ありがたい」と言っている人は、次から次へ功德を頂戴できます。

ところが、あれこれ理屈をこねる人は、隅から隅まで教えを誦（そら）んじているようでも、なかなか功德がいただけません。どこに原因があるのかというと、理屈だけの人は感激がないのです。それで打ち込み方が違ってくるわけです。

教えの一句でも、感激を持って受け止める人は、その教えを行じることに自分を燃やし尽くします。自分を燃やし尽くせる人は、周囲の人をも燃えさせることができるのです。ですから、まわり中が功德だらけになってしまって、もう、ありがたくてたまらなくなるのです。

素直な心で一瞬の感激ができるか、いたずらに理屈をこねまわして、行がおるすになってしまうかの違いで雲泥の差がついてしまうわけです。（つづく）

2～3月の主な教会行事

2月1日(土)	9:00～	朔日参り
2日(日)	9:00～	節分会 日程変更しました
4日(火)	9:00～	開祖さまご命日
10日(月)	9:00～	脇祖さまご命日
15日(土)	9:00～	涅槃会・釈迦牟尼仏ご命日
3月1日(日)	9:00～	朔日参り
4日(水)	9:00～	開祖さまご命日
5日(木)	9:00～	教団創立82周年記念式典
10日(火)	9:00～	脇祖さまご命日
15日(日)	9:00～	涅槃会・釈迦牟尼仏ご命日

●メッセージ

中国では新型肺炎が発症し、この月報がお手元に届くころには患者数 2,000 人、死者 60 人を越える事態となっているかもしれません。しかも 1 月 25 日から 40 日間、春節と呼ばれ、中国国内はもとより地球規模の民族大移動があり得ます。私たちも他人事ではありません。こういう時に限って SNS によるデマが流されると混乱を生じます。自分はどうするのか、正しい情報は何か、何を信じればいいのか…。釈尊は「自燈明・法燈明」の教えを残されました。今一度、教えに基づいた自分自身の行動でありたいと思います。